NIE実践報告

1．タイトル：複数の新聞記事を比較して、自説を述べよう

2．学校名

福岡県直方市立直方第二中学校

3．実践者名（代表者名）

井手上大輔

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　180人

6．単元（本時の学習課題）名

日本の古代国家の形成

7．目標（狙い）

新聞記事を用いて複数の社会的事象を対比させることで、意志決定問題「国書をなくした小野妹子は外交官失格か？」を多角的に追究し、自分の見解をまとめることができる。

8．評価の視点

2つの記事（社会的事象）を比較し、それらの差異点を見出して、意志決定問題に価値判断を下すことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「古代の東アジアの情勢を調べよう」（教科書教材：大阪書籍）[社会科：2時間]　「遣隋使派遣の理由は？」（読売新聞連載記事全10回）[同：2時間]「意志決定問題追究」（新聞各紙）[同：3時間]　合計7時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①資料集をもとに、古代東アジアの国内外の社会情勢を調べる（2時間）
②読売新聞連載記事全10回「遣隋使1400年」を読み、遣隋使派遣の理由を調べる（2時間）
③読売新聞「杉原千畝」・朝日新聞「ミャンマー軍事政権」に関するそれぞれの記事を読み、外交官の任務や外交問題について調べる。（1時間）
④意志決定問題「国書をなくした小野妹子は外交官失格か？」（読売新聞連載記事第7回）を多角的に追究し、自分の見解をまとめる（2時間）

（留意点）
- **論理的に課題を追究させるために、「主張」「その根拠」を含んだワークシートを準備する。その形式に従って自らの見解をまとめさせる。**
- **3つの記事間の一致点と差異点を見出させやすくするために、それぞれの社会的事象を図式化して生徒に提示する。**

11．児童・生徒の反応、感想・意見

3つの新聞記事間の一致点・差異点を見出し、双方について述べることのできた生徒は5名（学級の14%）であった。一致点を指摘することができる生徒は学級の半数以上であったが、差異点を見出し、その違いを明確に主張できる生徒は10名未満であった。

12．成果と課題

（成果）
- **取り上げた記事「ミャンマー軍事政権」はタイムリーな内容であったため、生徒の学習意欲が高まった。**
- **生徒が連載記事を通読することで、新聞は1つのテーマを深く掘り下げる紙面づくりにも力を入れている、ということに気付いた。**

（課題）
- **一つの社会的事象に対して、各紙の取り上げ方に違いがあることを、社説等の実例を通して指導する必要がある。**